

## 平成30年度卓越大学院プログラム審査結果

機関名	東京工業大学		
プログラム名称	「物質×情報=複素人材」育成を通じた持続可能社会の創造		
プログラム責任者	和田 雄二	プログラムコーディネーター	山口 猛央

### 〔採択理由〕

物質科学と情報科学の融合によって、「ものづくり」から社会サービスまでをつなげ新産業を創出する「複素人材」を育成する独創的で意欲的な教育プログラムである。

本プログラムは、東京工業大学の指定国立大学法人構想における重点分野を背景とした提案である。卓越大学院として大学全体を横断する学位プログラム「物質・情報教育課程」を新設し、将来的に物質・情報の融合領域を専門とする学院横断型複合系コースへと発展させ、東京工業大学の教育研究分野の強みの一つとして更に成長させるという形になっており、大学院改革における将来構想上の位置付けも明確である。学長のリーダーシップの下、産業界からの経済的支援が確保され、補助期間終了後の継続的な運営も担保されている。

物質・情報系分野において世界的に卓越した教員と研究基盤を結集し、さらに国内外トップレベルの研究拠点・企業も参画する教育研究体制が整備され、国際的にも高い卓越性が認められる。カリキュラムについては、企業との連携を中心に充実しており、非常に良く練られた実効性の高い提案となっている。特に、物質・情報に関わる世界初のプラクティススクール（教員と学生がチームになり、同一企業に滞在し、企業が抱える重要課題に対する解決策を提案するもの）は、実社会での課題解決における実行力を効果的に涵養する取組として高く評価される。

持続可能な社会を構築するための物質と情報をリンクさせた新産業の創出には、テクノロジーを操る力のもとより、将来の社会の課題や人間社会の本質を見極める力を持った人材が求められる。東京工業大学の特色であるリベラルアーツ研究教育院を十分に取り込んだリベラルアーツ教育にも注力し、理系の発想に偏りすぎない人材育成が望まれる。本プログラムを着実に実施していくことによって、新産業の創出をリードするような人材が社会へ輩出されるものと期待する。